

# 北海道建築士

HOKKAIDO KENCHIKUSHI 2017.03.No235

3月号

## 目次

震災特集 災害と建築	1
青年・女性の怒 [青年委員会]	3
道士会の動き	4
Coffee Break	5
平成28年度 高校生建築デザイン コンクール入選作品発表	6
information	8

URL <http://www.h-ab.com/>

## 震災特集

# 災害と建築

## はじめに

早いもので今月11日には東日本大震災の発生より6年となります。また、昨年4月には熊本県で震度7が2回、10月には鳥取県でも震度6弱の地震が発生しました。北海道では、8月後半にたて続けにあった台風の襲来により大変な被害がありました。被災された皆様には改めてお見舞い申し上げます。

情報委員会では、この震災関連の特集をするにあ

たり、昨年の台風被害についても取り上げたい等の意見も出たため広く災害をテーマとすることにしました。そこで、平成23年から3月号の特集としてきました「震災特集」は、今号をもって一旦の区切りとし、防災の日と定められている9月1日に発刊の号へ移行したいと考えております。

## 災害の発生状況

広く災害としたので少し調べてみたところ、昨年末現在の過去5年間データですが、激甚災害と指定された災害は27件ありました。災害の種類別では、地震が3件、火山によるものが2件、他は全て台風や豪雨による災害となっています。これには昨年の道内での台風被害も含まれており、北海道ではもう1件の2件が指定されていました。

北海道は比較的災害の少ないところと思われる方も多いでしょうが認識を改める必要があると思います。

では、我々建築士として関連の深い地震について少し違った見方をしてみようと思います。阪神淡路大震災から22年が経ち、これ以降の大きな地震災害、震度7（相当含む）の発生場所と地域地震係数Zの値を比較してみました。

阪神・淡路大震災	Z = 1.0
鳥取西部地震	Z = 0.9
新潟県中越地震	Z = 0.9
東日本大震災	Z = 1.0
熊本地震	Z = 0.9

見てわかるように、Zの低いところの方が発生数の多いことがわかりました。道内は太平洋側を除く大半がZ = 0.9又は0.8といった数値です。低いからといって安心はできないと思われます。ここで、道内で発生した地震に目を向けてみると、震度では6弱が最大ですが、少し遡って1993年の釧路沖地震・南西沖地震から30数年で6回の旧震度6又は震度6弱が観測されています。昨年の函館市での震度6弱は記憶に新しいことでしょう。また、マグニチュードに注目してみると93年の南西沖地震や翌年の東方沖地震、2003年の十勝沖地震ではM = 8.0以上となっており、これは、阪神淡路大震災のM = 7.3や熊本地震のM = 7.0よりも規模が大きいことがわかりました。

実際に地震による大きな被害が発生しているわけではありませんが、このことから北海道は決して災害の少ない地域ではないと言えます。豪雨や台風での災害発生頻度が上がっていることなどから地球温暖化の影響も懸念されていることですし、災害に対する警戒はこれまで以上に意識しておく必要があるのではないのでしょうか。

## 災害と復興

昨年の全国大会へ参加した際、本大会の前日に連合会青年委員会により行われた「全国建築士フォーラム」で、阪神淡路大震災・東日本大震災・熊本地震をそれぞれ経験した建築士によるパネルディスカッションがありました。

そこではまず、それぞれの被災地の現状報告がありました。熊本以外の震災については発生より時間も経っていることもあり、ある程度の復旧はされています。震災からの復興の程度の質問では、20年以上経過している阪神・淡路大震災でさえ精神的な復興はなかなかされていないとの回答でした。実際、「復興イベントをやらないで欲しい」との声も上がっていたようで被災者とそうでない人との意識の乖離を感じずにはいられませんでした。

私自身、直近の2年間で阪神・淡路・東北・熊本の地域へ行く機会があり、それぞれを自分の目で見

てきました。神戸や淡路島では大部分は震災があったとは思えないほど綺麗に整備されています。ですが、住宅街の一部等では基礎だけが残されたまま放置されているところも見かけました。

また、東北地方でも同じことが言えます。こちらでは津波の被害が多かったこともあり、海岸近くの地域ではさらに多くの基礎だけの空き地が印象的でした。東日本大震災での最近の情報は原発事故による福島の話題が大半を占めています。状況はなかなか良くなりませんが、一刻も早い復興を望みます。

熊本では、被災から半年程で行くことができましたが、他の被災地とは違い、瓦礫が敷地内に残っているところがほとんどで、大半の建物の屋根はブルーシートで覆われ、復旧も俟たぬ…といった印象を受けました。

## 防災と建築士

唐突ですが建築基準法 第1条に何が書かれているか覚えていますか？建築士を目指して勉強を始めたとき、一番初めに出てきた記憶があります。

もうひとつ質問します。みなさんは「直下率」「水平剛性」という言葉をご存知でしょうか？ご存知でしたら普段これらを意識しているでしょうか。

私はこれまで、震災関係の報告会や関連講習等を何度か受講したのですが、そのなかで強烈に覚えているものを紹介します。

熊本地震にて、2008年竣工、軸組み工法・一部2階建ての建物の倒壊状況が紹介されました。当然、新耐震基準ですし、壁量計算も金物の施工状態も問題なかったようです。それでも倒壊しました。

詳細は解析中とのことでしたが「直下率」「水平剛性」が大きく関係しているのではないかと考えられているようです。実際、2階外壁の真下に耐力壁が全く無い部分があり、うまく2階の地震力を耐力壁に伝達できないのではないかと解説されました。

さて、改めて防災について考えてみました。まず、辞書で「防災」を引くと「災害を未然に防ぐこと」とあります。これだけを読むと、防災とは国や行政といった大きな力が必要な感じがしてしまいます。ですが、我々建築士は個人からでも防災に取り組むことができます。そうすることで建築士としての価値を高められるのではないのでしょうか。

## おわりに

先述のフォーラムの中で、「建築士として災害時に何ができるか」といったワークショップをしてきました。参加者は、全国各地から集まっていながらも直接被害にあった経験のある人はほとんどいませんでした。だからこそ、貴重な経験や知識等を共有が重要であるといえます。

ワークショップでは、それぞれの体験談を交えながら、応急危険度判定であるとか、ボランティア活動であるとかを話し合いましたが、その中で、建築士としてある前に人として生きていくことが重要なのではないかと感じました。個人として対処するための防災には確かに知識が必要です。防災イベント等にも積極的に参加していきたいと思えます。

と共に生きるための知識や技術も身につけるべきと考えます。

### 建築基準法 第1条

この法律は、建築物の敷地、構造、設備及び用途に関する最低の基準を定めて、国民の生命、健康及び財産の保護を図り、もつて公共の福祉の増進に資することを目的とする。

とあります。これは建築士として防災を目的とすることが職責であると断言しているのではないかと感じました。

情報委員会副委員長 斎藤 勝哉

## 青年委員会

### 平成28年を振り返って

道東ブロック長

伊井 崇史 (中標津支部)



平成24・25年に1期2年青年委員を務めてから2年ぶりに、今度は道東ブロック長として、青年委員に戻ってきて、1年が過ぎました。

前期の青年委員活動では、それまで全道規模のイベントにはほとんど参加したことが無かった状況で、各種イベントの企画や運営などを行い、大変だったけど、とても楽しい活動でした。

また、この青年委員活動を通して、全道各地に仲間が増えたことは、自分にとって非常に大きな財産となっています。建築士会のメリットとして、仲間づくりとよく言われますが、それを肌で感じた2年間でした。

ただ、平成24年度には、息子の幼稚園の父母会長もやっていて、とにかく忙しかったのも、今となっては良い思い出です。

そして昨年、前回の青年委員会で学んだ経験を活かして、石塚委員長のもと、また、私自身も道東ブロック長として、頑張っていた矢先の出来事でした。

当支部の青年委員長の手賀君が亡くなったという衝撃の知らせがありました。

そのことについては、昨年7月の会報でも当支部長が寄稿していますが、彼とは高専時代からの同級生で、20年以上の付き合いでした。特に、私が本部青年委員、彼が支部青年委員長という事で、連絡会議、集い、全道大会、そしてブロック協議会。彼と一緒に移動した距離は、もしかしたら家族での旅行よりも長かったかもしれません。

新年当初から、そんな事があり、どうなる事かと思いましたが、前

述のとおり、仲間に助けられ青年委員はもとより、ブロック協議会活動を無事に行うことができました。

ここで、昨年の道東ブロックの活動を紹介したいと思います。

第1回ブロック協議会は4月23日に網走市で行われました。

会場として一昨年の8月にリニューアルオープンした網走流水館で行い、協議会終了後には、施設特徴でもある常設プロジェクションマッピングや、300インチの5面スクリーンなどの展示施設の見学を行いました。

その後、会場を移し、流水硝子館にて、グラスやとんぼ玉等硝子制作体験を行いました。

ここでは、硝子の材料に、蛍光管を使ったりサイクル硝子を使っています。



硝子制作体験の様子

第2回ブロック協議会は7月30・31日に帯広市で行われました。

十勝支部では、昭和58年から平成20年までの間に17件の古建築調査を行っており、その取り組みについて発表していただきました。また、翌日には十勝支部の事業として平成20年から参加している帯広ホコテンのイベントにて、子供達に木工作の提供やパネル展示によって建築士会のアピールを行っており、そのイベントに道東ブロックとして参加しました。



ホコテンイベントの様子

第3回ブロック協議会は、11月19日に湧別町で、上湧別町郷土資料館 ふるさと館 J R Yを会場として行われました。

この建物は、建築家の渡辺豊和氏設計の建物で、私は正直知りませんでしたが、道東地域にこんな建物があったんだ。と思うような、大変特徴のある建物となっています。



ふるさと館外観

また、協議会のなかで、道東ブロックのロゴマークコンテストを行い、7案の中から、下のロゴマークが選ばれました。



ブロック協議会は、士会に入会してから、全道規模のイベントに行くきっかけになると思います。私もそうでした。

士会に入会してもらうのはもちろんですが、新しく入った方が、参加して、また行きたいと思ってもらえるような、楽しめる協議会事業を行っていききたいと思います。



## 平成29年 一般社団法人北海道建築士会 定時総会について

平成29年 定時総会 代議員により開催します

開催日：平成29年3月24日(金) 会場：ホテル ポールスター札幌 2階「メヌエット」  
時間：14：30～17：00

平成29年 定時総会 懇親会 会員のみなさまも懇親会への参加ができます

開催日：平成29年3月24日(金) 会場：ホテル ポールスター札幌 2階「コンチェルト」  
時間：17：30～19：30

会 費：5,000円(当日会場で申し受けます。) 申込締切：3月14日(火)まで

※懇親会への参加ご希望の方は、(一社)北海道建築士会本部事務局(011-251-6076)へお問合せください。

### 道本部の主な行事予定(3月)

- 1日(水) 第1回事業委員会
- 4日(土) 第1回被災地応急支援委員会
- 7日(火) 平成28年会計監査
- 13日(月) 第1回理事会
- 15日(水) 平成29年専攻建築士審査評議会
- 24日(金) 平成29年北海道建築士会定時総会
- 25日(土) 全道青年委員会連絡会議

### 関係機関等会議参加予定(3月)

- 1日(水) 建設系CPD協議会運営委員会(東京) 高野会長出席
- 1日(水) 日本建築士会連合会第3回総務・企画委員会 鈴木副会長出席
- 9日(木) 日本建築士会連合会正副会長会議(東京) 高野会長出席
- 10日(金) 日本建築士会連合会理事会(東京) 高野会長・吉木副会長出席
- 21日(火) CPD・専攻建築士制度委員会(東京) 高野会長・鈴木理事出席
- 28日(火) 専攻建築士認定評議会(東京) 高野会長出席

### 道本部の主な会議報告(2月)

#### 第1回総務委員会

〈開催日〉2月25日(土)

- 〈議 題〉
- 1) 平成28年一般会計収支予算の流用(案)について
  - 2) 平成29年総務委員会事業計画及び予算について
  - 3) 平成29年定時総会の開催(案)について
  - 4) 第43回全道大会(土別大会)の開催日程等(案)について
  - 5) 平成29年度日本建築士会連合会表彰について
  - 6) 平成29年北海道建築士会長表彰について
  - 7) 国土交通省及び北海道の功労者等表彰について
  - 8) 全国大会北海道大会テーマ募集について

#### 第1回まちづくり委員会

〈開催日〉2月25日(土)

- 〈議 題〉
- 1) 平成28年事業報告・決算報告、平成29年事業計画・予算について
  - 2) まちづくりフォーラムについて
  - 3) 高校生建築デザインコンクールについて
  - 4) 高校生「建築甲子園」について
  - 5) 景観整備機構について
  - 6) 全道大会(後志大会)分科会について
  - 7) 連合会まちづくり委員会について
  - 8) その他

#### 第1回女性委員会

〈開催日〉2月25日(土)

- 〈議 題〉
- 1) 全道大会分科会 テーマと担当者(9/30・土・後志)
  - 2) 女性建築士の集い 内容と担当者(10/1・日・後志)
  - 3) 3部会活動について
  - 4) 連合会事業予定
  - 5) 会誌「北海道建築士」(広報Hokkaido)の企画内容について
  - 6) ブロック活動について
  - 7) その他

## 第7回 高校生の「建築甲子園」 北海道名寄産業高等学校 奨励賞を受賞

日本建築士会連合会が主催の第7回「建築甲子園」の結果が昨年12月に発表となり、北海道の代表校である北海道名寄産業高等学校の「はじめの一步」は、奨励賞に選ばれました。結果や審査講評などは、日本建築士会連合会ホームページに掲載しています。



### 4月開催講習会のお知らせ

#### 監理技術者講習

4月14日(金) 札幌市 大五ビル6階事務局会議室  
平成29年度建築士定期講習

平成26年4月～平成27年3月に受講し建築士事務所現在所属されている方が対象となります。平成26年度講習を(公財)建築技術教育普及センター主催の講習を受講された方へは、3月末～4月初めにプレ印字された申込書が届きますのでそちらを使用し申込みください。

- 第一期 5月18日(木) 札幌市  
5月24日(水) 函館市  
5月30日(火) 旭川市

第三期・第四期(10月～3月)

札幌市・旭川市・函館市・室蘭市・苫小牧市・帯広市・釧路市・北見市

## 「新たな業務」のお知らせ

平成30年4月から私達に新しい仕事加わります。

その概要をお話しますと、平成28年6月、既存住宅の取引環境を整備し流通市場の活性化を図るため、宅地建物取引業法が改正され、建物状況調査について次のような内容になりました。

まずは、媒介契約の時点で、宅建業者が建物状況調査を実施する業者の斡旋の可否を示し、媒介依頼者の意向に応じて斡旋、重要事項説明時に宅建業者が建物状況調査の結果を買主に説明、その後、売買契約となります。そして、この建物状況調査を行う技術者については、平成29年2月3日、既存住宅建物状況調査に係わる告示が公布、施行され、「既存住宅状況調査技術講習」による講習を修了した建築士となりました。日本建築士会連合会では、早々に講習機関の登録を受ける予定ですので、本会におきましても、連合会と歩調を合わせて、既存住宅状況調査技術者の育成に向けた講習会の準備を進めてまいります。来年の平成30年4月には、宅建業者による建物状況調査結果の重要事項説明等が施行されることとなります。その時点で、既存住宅の取引に大きな混乱をきたすことのないよう、講習を受けた建築士である既存住宅状況調査技術者が、全国津々浦々、不都合が生じない数いなければなりません。この業務が、今後の建築士業務の拡大に繋がることもご理解いただき、講習会開催の折には、是非とも多くの皆様が、既存住宅活用に向けた知識の取得、技術の向上に向け受講をしていただきますようお願い致します。

### 恵庭支部

### 復活する 青年部の「焼き鳥店」出店！（大好評「恵庭トマト焼き鳥」1,800本完売）



事務局長  
伊藤 隆英

当支部は平成7年から恵庭JC主催の「えにわ雪んこまつり」に地域貢献活動の一環として「巨大迷路」や各種の露店を出店するなど平成19年までの13年間、支部の一大事業として行ってきた長い歴史があります。

また、昨年から青年部会が毎月の第二火曜日に市役所の会議室で「定例会」を開催して、今後の活動についての意見を出し合い、より良い活動につなげて行くとともにお互いの情報交換などを行うことを趣旨に開催されてきました。

その会議の中で「建築士会」を多くの市民にアピールする機会として、8月20日(土)恵庭商工会議所青

年部主催の「YEGフェスティバル」に参加することが話し合われ、以前の「雪んこまつり」で行った「焼き鳥店」を出店することに決定しました。

この出店条件は「地元食材を使用する！」ことになっており、試作と試食を重ね、ついに「恵庭トマト焼き鳥」を完成しました。

このレシピは、まず最初に通常どおりに軽く塩コショウで下味をつけて焼き、その焼き上がった串に、地元余湖農園産の「トマトペースト」をたっぷりかけてその上に「バジル」をふりかけて完成です。当日は親会からのベテラン「焼師」の応援を得ながら延べ20名の参加で大雨の中、1,800本の焼き鳥を完売することができました。9年ぶりの「焼き鳥店」の出店でしたが今後も継続してやるとのことであり、大いに青年部の活動に期待し、支援をしていきます。

### 遠軽支部

### 白滝ジオパークと地域での建築士の役割



副支部長  
坂東 耕自

遠軽支部はオホーツク管内中心部の遠軽町、湧別町、佐呂間町が支部管内ですが、若い建築士が減り会員のなり手が少なく、古参会員の高齢化・退会もあって会員数は右肩下がりの現状です。

支部活動として特筆すべきは、平成21年の支部創立50周年に、遠軽町留岡に大正8年に建設された、北海道指定有形文化財「北海道家庭学校礼拝堂」の調査と、失われていた建築設計図を復元し学校に寄贈したことです。しかし最近では活動も停滞しがちです。

他方、町村合併した遠軽町では、約220万年前の溶岩噴出で生まれた黒曜石が白滝地域の山中に大規

模露頭し、豊富な資源量と石器素材として最適な性質であったため、3万年前の旧石器時代を中心に人々が広く利用していたことをテーマとして、白滝ジオパーク（地質遺産を含む自然公園）構想をつくり、昨年日本ジオパークの再認定を受けています。

このジオパークとは、地質など大地の歴史と、そこに広がる地域の生態系、営まれてきた人類の歴史・文化遺産を対象として、それらの保全、教育、観光に取組み、地域の持続的発展に繋げる地域づくりの活動とされています。

当地域には、北海道家庭学校礼拝堂の他にも大正期以後の歴史的価値を持つ建造物が現存します。その発掘や資料づくり等に支部として係わりを持ち、記録を保存し地域の文化遺産として保全に繋がればと考えています。



# 平成28年度 高校生建築デザインコンクール入選作品発表

## 課題 「高等学校の農業実習管理棟」

農業科の生徒が農業実習授業で使用する農業実習室と実習地（畑・ビニールハウス）で使用する農具、肥料等を保管する「農業実習管理棟」を設計してください。

農業実習室は、実習で生産した野菜等を地域住民に販売する際の販売会スペースとしても利用できるように設計してください。

「高校生建築デザインコンクール」は、次世代を担う建築系高校生の「建築」に対する関心をより高めることを目的に、北海道が平成8年より実施しており、道内建築系学科の高校生から夢のあるユニークなデザインを募集して、毎年開催されています。現在は、北海道・日本建築家協会北海道支部・北海道建築士事務所協会・北海道建築士会が共催し、今回で21回目の開催となります。今年度は、北海道美幌高等学校に建設を予定している「農業実習管理棟」を設計課題として募集したところ、6校142名から86作品の応募がありました。

この86作品については、9月9日に選定委員会が開催され、「高校生らしい若々しさと創造性にあふれているか」「設計のコンセプトやデザインに魅力があるか」「立地条件を活かしているか」「実施設計に反映させ得るデザインであるか」

といった観点から厳正な審査が行われ、最優秀作品1作品、優秀作品3作品、佳作4作品、特別賞2作品を選定いたしました。

最優秀作品賞は、コンセプト・プラン・デザイン・表現力など総合的に優れた提案であった、「しら樺館」北海道函館工業高等学校 三浦和寧(3年)さんが受賞されました。なお、最優秀作品賞のデザインについては、現在計画中の「農業実習管理棟」の設計に反映されるということもあって、自分のアイデアが現実の建物になっていく喜びをきっと感じただけのものと思われまます。

高校生建築デザインコンクール選定委員  
針ヶ谷拓己（札幌支部）

最優秀  
作品賞

## しら樺館

北海道函館工業高等学校  
三浦 和寧（3年）

### 設計趣旨

私は農業実習管理棟を設計するにあたって「元からある街の雰囲気・自然環境に馴染む建物」をテーマとして位置づけました。外観は、サイロをイメージした玄関や正面の柱、西側の壁面緑化などで懐かしい雰囲気と美幌町の大自然を表現しました。建物内は各空間で無駄のない動線計画を心がけ、即売会の際の教員・生徒と町民の方の利用しやすさを考えテラスを設けました。この「しら樺館」が、オホーツクの農業を担い、自然を大切に育てる生徒を育て、今後何十年も多くの方々に愛されることを願っています。

### 審査講評

「白樺」をモチーフにした内容は好感が持て、生徒に親しみを持たれるデザインである。共用部と管理部が中間に配置され、その左右に農業実習室と農具庫が明快に配置された、すっきりとまとまった平面計画が秀逸で、コンセプト、プラン、デザイン、表現力など総合的に優れた提案であることが特に高く評価された作品である。



# 優秀作品賞

北海道苫小牧工業高等学校  
皆川 七星 (3年)

## άνεμος (アネモス)

### □設計趣旨

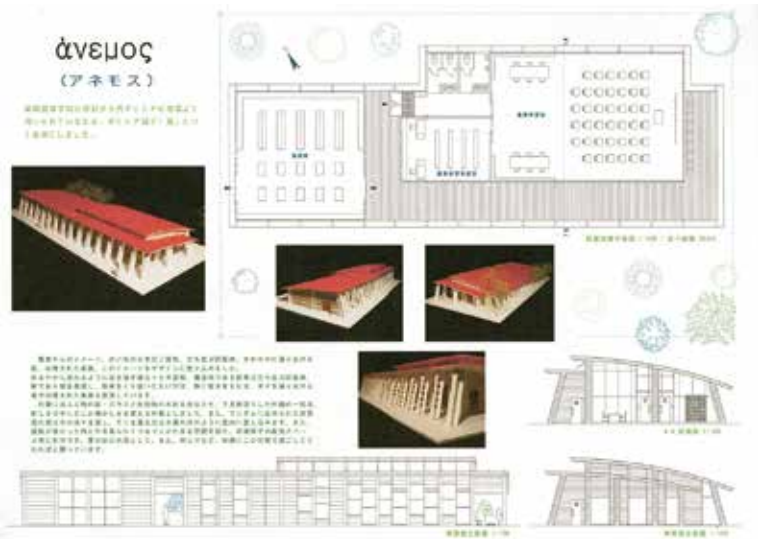
農業からのイメージ、赤い色のかまぼこ屋根、立ち並ぶ防風林、さわやかに通りぬける風、収穫された果実、このイメージをデザインに取り込みました。

ゆるやかに流れるように弧を描き連なったR屋根。構造体である鉄骨は立ち並ぶ防風林。幹であり根を表現し、鉄骨をくり抜いた丸い穴は、鉄に軽さをもたせ、木々を通りぬける風や収穫された果実を表現しています。

外壁には人工物の鉄・ガラスと自然物の木材を対比させ、下見板張りした外観の一部は、新しさの中にどこか懐かしさを覚える外観となりました。また、ランダムに区切られた実習室の窓は木の枝々を表し、そこを通る光は木漏れ日のように室内に差し込みます。また、屋根が掛かった内と外を柔らかくつなぐ人がたまる空間を設け、収穫祭での販売スペース等に利用でき、夏の日陰として、また、雨よけなど、快適にこの空間で過ごしてくれればと願っています。

### □審査講評

外部通路とテラスを上手に設け、農具庫と教室群を分離した計画がユニークである。立面がきれいでインパクトがあり、構造体でデザインしたところが評価された作品である。



# 優秀作品賞

北海道函館工業高等学校  
横内 美紀 (2年)

## はっばの実習棟

### □設計趣旨

はっばをモチーフにして考えました。屋根がはっばの形になっていて、側面からは美しい曲線の形で見えます。

玄関は2つあって、校舎から来るなら西側から、農地から来るなら東側から入ると楽です。トイレは玄関の近くにおいて、実習地で活動している生徒も利用しやすくなっています。実習室には外から直接入れる出入り口を設けました。販売の際などに使えます。農具庫にはシャッターを設けました。物をまとめて出し入れする時などに便利です。シャッターの正面には水道があるので、野菜を持ってきて、洗って、冷蔵庫に入れる一連の流れがスムーズにできます。

授業がちょっと楽しくなるような、そんな実習管理棟になってくれるといいです。

### □審査講評

二方向からのアプローチとホール中心に各室が配置され、機能的な動線を考慮するとともに、思いきったデザインを取り入れた、高校生らしい作品である点が評価された。



# 優秀作品賞

北海道苫小牧工業高等学校校定時制  
千葉 恭弥 (4年)

## 美幌高等学校農業実習管理棟

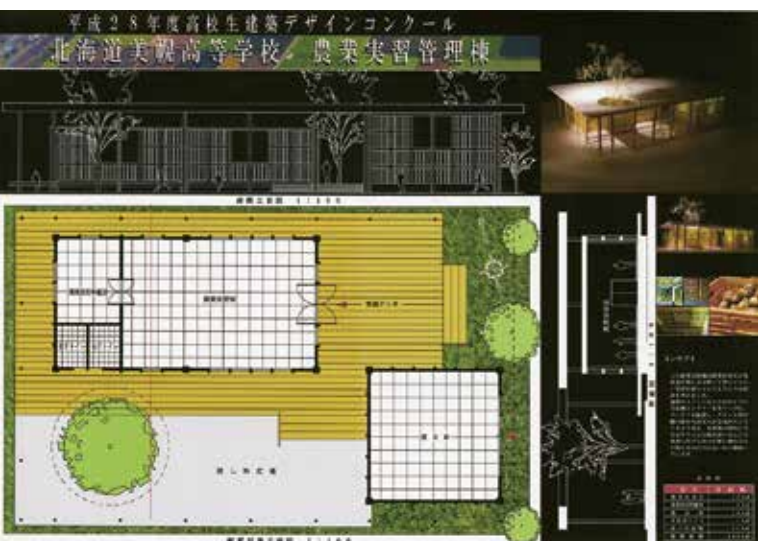
### □設計趣旨

この農業実習棟は農業科を学ぶ生徒達が親しみを持って使ってもらい愛着を感じてもらえるような設計を考えました。

建物のイメージを日々目している収穫コンテナをモチーフに、コンテナを配置し、スリット状の開口部からは柔らかな光が入ってくるよう考え、実習棟の周りに大きなテラスと広場を設けることで授業以外にも色々な催し物なども可能になるのではないかと期待しています。

### □審査講評

大きな屋根の下にイベント広場と建物が同居し、空間的にも楽しそうな計画であり、徹底的にシンプルを求めた平面をベースに力量を感じるデザインが評価された作品である。





## CPD認定プログラム(2月認定)

認定は、ありません。

## 販売のご案内



「四会連合協定建築設計・監理業務委託契約書類」(小規模向け)

◎A4版  
◎価格 会員864円(税込) 一般1,080円(税込)



「民間(旧四会)連合協定リフォーム工事請負契約書類」(書式・約款)

◎A4版  
◎価格 会員486円(税込) 一般540円(税込)



「民間(旧四会)連合協定マンション修繕工事請負契約約款契約書関係書式」(2部在中)

◎A4版  
◎価格 会員777円(税込) 一般864円(税込)

## 実務に役立つ建築法規解説2016 販売のご案内

平成29年1月～2月に開催の第50回建築基準法講習会で使用しましたテキストを販売いたします。

販売予定数に達した時点で終了となりますので、お早めにお求めください。



## 実務に役立つ 建築法規解説2016

編集＝全道建築行政連絡会議

第50回 建築基準法講習会テキスト

◎A5判 ◎定価：3,500円

※送付希望の方へは書籍を、送料着払で発送しておりますので、FAXにてお申してください。

なお、請求書は別途郵送いたします。

(申込用紙は北海道建築士会のホームページからダウンロードできます。)

【図書問合せ先】(一社)北海道建築士会 011-251-6076

※笠原爺イの釣り日誌はお休みします。

## 平成29年 (一社)北海道建築士会会員作品の募集

### 応募対象

- 対象建物 平成25年以降に竣工し、検査済証の交付を受けた建物で、その用途、規模等は問いません。ただし、確認申請を要しない建物は、検査済証は不要です。
- 対象者 本会の正会員(応募建物の設計、及び施工管理者等、責任ある立場で建築に携わった者に限りです)
- 応募作品 1人若しくは1グループで1点とします。

### 所有者等の了解

予め所有者、管理者等の了解を得てください。

### 応募締切

平成29年5月19日(金) 必着

### 応募資料

- 申込書 所定の申込書を本会HPからダウンロードして記入してください。
- 提出資料 図面(平面図・断面図・配置図等)及び完成写真(内・外装)等の画像データ3点と上記申込書を、CD-ROMに記録して提出してください。(応募作品は返却しません)

### 作品掲載

応募作品のすべては、本会ホームページに掲載します。また、その中から4点程度を選考し「北海道建築士No241」に掲載します。※詳細は、北海道建築士会HPをご覧ください。



昨年の作品

## 編集後記

平成28年度も早いもので、あと1か月となりました。新たな旅立ちに向かって準備を進めている人もいるかと思いますが、いかがでしょうか?今月号は平成28年度高校生建築デザインコンクール入選作品を掲載させていただきました。どの作品も素晴らしい表現力で描かれていて将来性を感じさせるものとなっています。高校を卒業し新たな旅立ちを迎える季節ですが、未来の建築士としてわが建築士会会員の仲間に入ってくれるといいですね。

情報委員 熊谷 智(苫小牧支部)

情報委員会委員長/早川 陽子  
副委員長/齋藤 勝哉・高松 徹・森 勝利  
委員/熊谷 智・柳山美保子・鈴木 雅人  
柏倉 晶憲

## 北海道建築士 No.235号

印刷 平成29年2月/発行 平成29年3月

編集・発行 一般社団法人 北海道建築士会  
〒060-0042 札幌市中央区大通西5丁目11番地  
大五ビル  
電話 (011) 251-6076番  
URL <http://www.h-ab.com/>

印刷 株式会社 正文舎  
〒003-0802 札幌市白石区菊水2条1丁目  
電話 (011) 811-7151番